



CHECK

広報紙デジタル版公開中！

いつでもどこでも、スマホで読めます！

アクセスは
こちら

南海トラフ地震への備え

安心・安全な 津波対策



で安全確認！

ドローン



タブレットで
防潮鉄扉を遠隔操作





南海トラフ地震への備え

安心・安全な津波対策

紙面版にはない
オリジナル記事が読める
デジタル版はこちら▶



今後30年の間に約8割の確率で発生するといわれている南海トラフ地震。市では、地震で発生する津波から命やまちを守るため、2015年度から津波対策を強化してきました。今回は、2023年3月末に完了した、全国トップレベルの津波対策を紹介します。



神戸を守る、強くなった

防潮堤

POINT

01 海水が堤防を越えないように、防潮堤を高く!

東日本大震災では、マグニチュード9クラスの地震が発生し、想定を超える高さの津波が押し寄せました。もし、東日本大震災と同じくらいの巨大地震が起きたら、最大3.9mの津波が神戸を襲うと想定されています。これまででも神戸のまちは、全長約60kmの防潮堤により、高潮や津波から守られてきました。今回、さらに大きな津波に備えるため、約8年かけて防潮堤を粘り強い構造に強化しました。

POINT

02 津波によって土台を壊されないように、コンクリートで補強!

POINT

03 繰ぎ目から海水が流れ込まないように、すき間が空きにくいよう強化!

最新技術を活用した
防災設備

市は、デジタル技術を活用したスマートシティを推進中。津波対策にも、スマートシティならではの設備を導入しました。タブレットによる遠隔操作で防潮鉄扉を迅速に閉めたり、ドローンを使って空から被災状況を確認したり、最新の技術を活用しています。災害の対応に携わる人も津波に巻き込まれることなく、安全に作業できるようになりました。



閉まっていきます

全国初

① タブレットによる防潮鉄扉の遠隔操作



防潮鉄扉を操作する職員がどこにいてもタブレットで開閉できます。

完全に閉じました



メリケンパーク

もし、マグニチュード9クラスの地震が発生し
最大3.9mもの津波が襲ってきたら…

●津波浸水想定図



津波が発生すると沿岸部は、人が住むところまで広く浸水してしまう想定でした。

浸水深さ

- 3.0m以上～4.0m未満
- 2.0m以上～3.0m未満
- 1.0m以上～2.0m未満
- 0.3m以上～1.0m未満
- ～0.3m未満

防潮ラインとは

防潮堤などにより人が住むところや都市部への浸水を防いでいるライン

対策後

人が住むところには、浸水しません。

居住地以外の場所も、浸水するエリアが大幅に減少しました。



防潮ライン



住んでいる場所には浸水しなくなっています。安心だね

津波ハザードマップなどの詳細はこちら▶



久元市長の神戸を想う

東日本大震災で津波が押し寄せたとき、水門と守ろうと一ヶ所消防署の殉職者たちが命を擰げて守りました。住民を守るために命を擰げた彼らの命と、多くの命を守るために奮闘した消防署員たちの命と、その事実と教訓を胸へ刻み、災害対策を進一步進化させていくことを誓っています。神戸市は、また津波や高潮来襲時に水門や陸閘も閉鎖するシステムを構築し、堅強なテクノロジーで守り取り組みを進めます。これまで、岸壁の水中部分が壊れていないか、潜水士が海に潜って確認していましたが、水中ドローンで安全に調査できるように。

神戸市長
久元 喜造

久元 喜造

※陸閘:防潮堤を横断して移動するため設けられた開閉式の防潮鉄扉



② リアルタイムカメラ

神戸港防災ポータルサイトでは、沿岸に設置したカメラで海の状況を24時間365日発信しています。また、防潮鉄扉の開閉状況や、海面の高さをリアルタイムで確認できます。



③ ドローン活用



いち早く被災状況を把握し、防潮施設に異常がないか確認するために、空から撮影。